

令和6年度岡崎市教育研究大会レポート

1

9	家庭
---	----

岡崎市立井田小学校 久嶋 晃乃巳

2 研究テーマ

持続可能な社会の構築に向け、実践力を育くむ児童の育成
－6年 「クリーン大作戦」の授業実践を通して－

3 主題設定の理由

(1) 児童の実態

現在、気候変動・紛争・感染症・資源の枯渇など、今の地球は様々な問題を抱えており、その対策のためにも、国連サミットでは、SDGs(持続可能な開発目標)が定められている。これは、2030年に達成を目指して掲げられたもので、「誰ひとり取り残さない」とい理念が掲げられている。私たちが生きる上で欠かすことのできない生活の中で、SDGsを意識することは、持続可能な社会を実現するために必要不可欠なことであると考えられる。しかし、SDGsの認知率は約80%と高いが、行動率は約61%と言われており、低いことが事実である。そこで、日常生活と結びつきの強い家庭科の授業を通して、普段の生活からSDGsへの取り組みを自分ごととして捉え、意識して生活できるようにしていきたいと考えた。

本研究を進めるに当たって、クラスの児童に事前アンケートを行ったところ、SDGsという言葉を知っている児童は30/32人であった。内容を理解している児童は15/32人と約半数であった。普段の生活で意識しているかという質問に「意識している」と答えた児童は2人であった。この結果から、SDGsという言葉は知っていても、実際に日常生活で意識している児童は少ないことが現状であることが分かった。

SDGsを意識して生活することは自分たちの未来につながることである。このままの生活を続けることで、地球がどうなるのかという点について考え、SDGsへの取り組みを自分ごととして捉えさせたい。そして、日常生活でSDGsを意識した取り組みをしようという気持ちを高めたいと考えた。また、日常生活と結びつきの強い家庭科の授業を通して、焦点を絞りながら少しずつ意識して実践できることを増やしていきたい。そのきっかけとして、はじめに、学校生活の中で毎日行う掃除に焦点を当て持続可能な社会の構築に向けたSDGsの取り組みを自分ごととして捉えさせたい。

これらから、SDGsを自分ごととして捉え、生活の中で持続可能な社会の構築に向けてできることを実践していこうという気持ちを高められることを強く願い、本単元「クリーン大作戦」を設定し研究を進めることとした。

(2) 目指す児童の姿

持続可能な社会の構築に向け、実践力を育くむ児童の育成

4 研究の内容

(1) 研究の仮説と手だて

<仮説①>

SDGsへの興味を高めたり、17のゴールとのつながりを意識した授業を行ったりすることで、SDGsを意識した行動に取り組むことを自分ごととして捉えることができるだろう。

<手だて>

ア：総合の時間を活用し、SDG s への興味を高める

イ：授業の内容を SDG s 17 のゴールと関連させる

<仮説②>

掃除の仕方について環境に配慮した掃除の多様な方法を学び、授業の中で実践活動を取り入れることで、今後の日常生活での実践力を高めることができるだろう。

<手だて>

ウ：学校内の汚れている場所を探し、問題解決できる学習を行い、掃除への意欲を高める

エ：環境に配慮した掃除の多様な方法を学び考えていけるように、話し合い活動や学級で意見を共有する場を多く取り入れる

オ：題材の最後に、自分で考えた掃除方法を実践する場をつくる。さらに、その結果を共有できるようにする

(2) 抽出児童の選出

継続的にそしてより具体的に考察をするために、抽出児童を選出した。以下、児童Aを例にとって、論述する。

《生徒A》

発言が多く、授業へ取り組むの様子から、家庭科の学習は意欲的に行っており、本人も大好きだと言っている。SDG s について、言葉は知っているが、普段の生活では全く意識していないと答えている。

(3) 学習計画

授業について、以下のように計画をした。

学 習 課 題	学 習 内 容
なぜ掃除をするのだろう	<ul style="list-style-type: none"> なぜ汚れるのか、何のために掃除をするのかを考え、問題を見出し課題を見付ける SDG s の 17 のゴールのどこにつながるか考える <p style="text-align: right;">【手だてイ】</p>
学校汚れウォッチング	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決できる学習になるように校内の汚れを調べ、その結果を記録する どのような汚れがあったか話し合いをする <p style="text-align: right;">【手だてウ】</p>
そうじの仕方のコツや手順を調べる	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを使って、掃除の仕方のコツや手順を調べる お家の人にもどのように掃除をしているか聞く 調べたことや聞いたことを話し合う <p style="text-align: right;">【手だてエ】</p>
汚れに合わせた掃除の仕方を考える	<ul style="list-style-type: none"> 前時をもとに、校内の汚れていた場所の掃除の仕方を考え、グループで話し合い活動をする <p style="text-align: right;">【手だてエ】</p>
そうじの実践をする	<ul style="list-style-type: none"> 前時で考えた掃除方法を実践し、効果を調べる。 <p style="text-align: right;">【手だてオ】</p>
掃除の実践の結果を共有する	<ul style="list-style-type: none"> 結果をスクールタクトにまとめる。 スクールタクトは閲覧モードにし、みんなの実践を見れるようにする <p style="text-align: right;">【手だてオ】</p>

・実践した掃除がどれくらい有効であったら、SDG s を意識して環境への配慮はできていたか振り返る

5 研究の実際

(1) はじめに 総合の時間を活用し、SDG s への興味を高める【手だてア】

本時に入る前に、総合の時間を活用し、SDG s についての質問をいくつか行った。SDG s という言葉を聞いたことがある答えた児童が 30/32 人だったのに対して、日常生活で意識しているという児童は 2 人しかいない現状であった。そこでまず、SDG s を自分ごととして捉え、意識した生活を心がけることが大切でことに気づくことが必要であると考えた。

SDG s を意識した生活を心がけることが大切であるという気持ちを高めるために、今の生活を続けていると、今後地球がどうになってしまうのか主に 2 点を紹介し、困ることなど話し合い活動をした。紹介した 2 点は以下である。

- ・世界の人々が全て今の日本と同じ生活をした場合、地球 2.8 個分の資源が必要になると予測されていること
- ・2050 年には今よりも 2℃、2100 年には今よりも最大 4.8℃ 気温が上昇すると予測されていること

「今より 4.8℃ 暑くなったら夏どうなるの?」「地球 2.8 個分ってことはいろいろなものが足りなくなっちゃうよね」という話題が中心に未来を想像しながら話を進めた。

この授業の終わりの振り返りで、児童 A は「今までは、環境のことを考えて生活しようと思わなかったが、このままだと将来の自分が困ると思ったから、SDG s を意識した生活を心がけていきたい」と書いた。また、17 のゴールがあることを知った児童 A は「学校生活の中でもできることがたくさんありそう」と言っていた。このことから、SDG s に興味をもち、自分ごととして捉えて生活をする大切さを感じることができたのではないかと考える。

〈資料①〉児童 A の振り返り

今までは環境のことを考えて生活しようと思わなかったけど、このままだと将来の自分が困るから SDG s を意識して生活しようと思えるようになった。

(2) 第 1 時 なぜ、掃除をするのだろうか【手だてイ】

まず、「なぜ掃除をするのか」という点について考えた。「きれいにするため」「健康に過ごすため」「ものを長持ちさせるため」という意見が多くあがった。次に、出た意見を SDG s 17 のゴールの何番と関りがあるか考えた【手だてイ】。その結果、以下のように関りがあると児童は考えた。

- ・きれいにするため→13・14・15
- ・健康に過ごすため→3
- ・ものを長持ちさせるため→12・13・14・15

「ものを長持ちさせるため」という意見に対して、初めはゴール 12 の「つくる責任 つかう責任」しか意見が挙がらなかったが、「あてはまる項目はそれぞれ一つしかないかな?」と問うと、「長持ちさせて捨てないならごみが減る。だから気候変動とか海の豊かさや陸の豊かさにも関りがあるのではないかな」と話し合いが進んだ。

児童 A は「掃除はきれいにするためだけだと思っていたが、SDG s の多くのゴールに関りがあり、繋がっていくことが分かった。意識して生活することの大切さを知った。」と振り返った。このことから、SDG s を意識した行動に取り組むことを自分ごととして捉え、行動していくことの大切さを感じられたと考える。

〈資料②〉児童 A の振り返り

掃除はきれいにするためだけでなく、13、14、15 のゴールにつながっていくことからも、12 の「つくる責任 つかう責任」も関係があることを知った。

(3) 第 2 時 学校はどこにどのような汚れがあるのだろうか【手だてウ】

第 2 時では、問題解決的な学習になるように、校内の汚れを探す授業を行った。児童は校内を周り、プリントに様子を記入してタブレットで汚れの状況を撮影した【手だてウ】。次に学級でどこにどのような汚れがあった話し合いをした。以下のような汚れが挙がった。

- 黒板の上→ほこり、チョークの粉
- 理科室の流し→水あか
- 図工室の机→絵の具
- 廊下の流しの下→ほこり、黒ずみ
- 窓のさん→ほこり
- 水槽の下→水あか
- 家庭科室のコンロ→油汚れ
- くつ箱→砂、泥
- 昇降口→ほこり、砂
- 廊下や教室の隅→ほこり

校内にはどのような汚れが多いか問うと、「砂やほこり」が多いという結論になった。もっときれいだと思っていたけれど、意外に汚れている場所が多かったと児童は口をそろえて言っていた。児童Aも「毎日掃除をしているはずなのに、自分が思っていたより汚れている場所が多く驚いた。学校を大切にすることもSDGsにつながるから、今後の掃除はもう少し周りを見て丁寧に行いたい」と振り返った。身近なところで汚れを探したことで、児童Aのより丁寧な掃除をしていこうという気持ちを高めることができたと考える。

(4) 第3・4時 掃除の仕方のコツや手順を調べよう【手だてエ】

第3時では、タブレットや教科書を使い、掃除に使える道具や、掃除のコツを調べる学習を行った。その際、調べる視点を3つ伝えた。「一つ目は、どのような道具や洗剤で掃除ができるか」「二つ目は、掃除のコツ」「三つ目は、SDGsなど環境を配慮した掃除の仕方」である。三つ目のSDGsなど環境を配慮した掃除の仕方に関しては、調べられる児童が少なかった。そこで、グループを作り、話し合いをする場を設けた【手だてエ】。児童Aの話し合いの様子は資料③のCT表のとおりである。掃除をしてもものを大切にすることがSDGsのゴールに繋がることは授業の始めに抑えていたが、掃除の方法や使うもので、さらに環境に配慮した掃除を行うことができることに気付いた。

〈資料③〉CT表

- C1: 環境に配慮した掃除って何だろう。
 C2: 洗剤を使わないで自然のものを使うって調べたよ。
 児童A: 自然のものって何?
 C2: 重曹とかクエン酸を使うらしい。
 C1: どうやって使うのか調べてみよう。
 ~
 児童A: ほかにもぞうきんじゃなくていらなくなった服を使うのことも環境に配慮しているよ。
 C3: 掃除のときに水を節約することもSDGsのゴールに繋がるね

授業の最後に、「今日いろいろ調べたけれど、実際にお家ではどんな掃除をしているかな?」と問うと、「お母さんがやっているから知らない」と答える児童が多かった。そのため、お家の人にどのように掃除をしているかコツややり方を聞いて来ようという課題を出した。

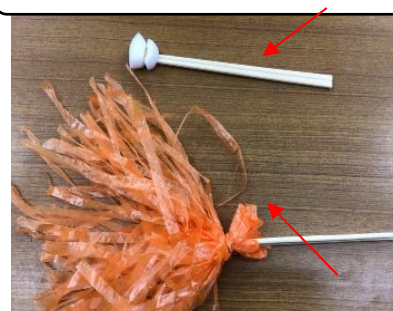
第4時では、調べたことや家庭で聞き取ったことを学級で共有する時間をとった【手だてエ】。次時でプリントをもとに掃除方法を考えていくことを伝え、自分が調べていない内容に関しては追加で書かしていくことを伝えた。このことにより、なかなか調べられなかった児童も同等に内容学ぶことができた。話し合いを通して共有した意見は資料④の板書のとおりである。また、授業の最後に児童から出た意見をもとにオリジナル掃除道具を作って見せて紹介した。児童Aは、環境に配慮した掃除について自分で調べられないことも学ぶことができた振り返った。

〈資料④〉発言をまとめた板書



〈資料⑤〉オリジナル掃除道具

激落ちくんと割りばしで作った道具



ビニールテープと割りばしで作った道具

(5) 第5時 汚れに合わせた掃除の仕方を考えよう【手だてエ】

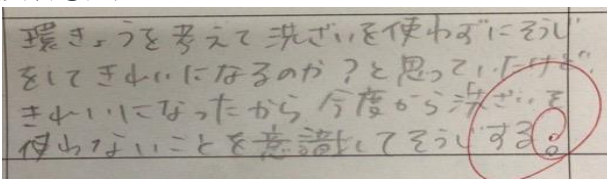
第5時では、自分が見つけた校内の汚れをどのように掃除をしていくか考えた。児童は前時で扱ったプリントをもとに自分が見つけた校内の汚れをきれいにするための方法を考えた。また、ヒントとして資料⑥の写真を一枚テレビに映し、使えるものの参考にしてよいことを伝えた。

自分で考えたあと、グループで話し合い活動の時間を設けた。環境に配慮しているグループを取り上げて紹介すると、児童Aを含むそのほかのグループも「環境に配慮しているか」という視点で話し合いを進めた。児童Aの話し合いの様子は資料⑦のCT表のとおりである。話し合い活動を通して、環境に配慮した掃除の多様な方法を学ぶことができたと考える。

(6) 第6時 実際に掃除を試みよう【手だてオ】

第6時では、自分の考えた方法で掃除を実践した。また、その結果を自分で評価するようにした。児童には掃除を始める前と掃除をした後の写真を撮影するように伝えた。黙々と掃除をする姿が見られ(資料⑧⑨)、掃除が終わった後には、「きれいになるから掃除めちゃくちゃ楽しかった」という児童の声が聞こえてきた。また、「洗剤を使わなくてもきれいになることが分かった」という声も多く聞こえてきた。児童Aも「環境に配慮して洗剤を使わずに掃除をしてきれいにならないと思ったけどしっかりきれいになったから、今後は洗剤を使わないことを意識して掃除していきたい」(資料⑩)と振り返った。このことから、掃除にたしてSDGsを意識して取り組んでいこうという気持ちを高められたと考える。

〈資料⑩〉児童Aの振り返り



(7) 第7時 みんなの掃除の実践の結果知ろう【手だてオ】

第7時では、前時に行った掃除の結果を資料のようにスクールタクトにまとめた。また、共同閲覧モードにすることで、級友の行った実践と結果も知ることができるようにした【手だて：オ】。児童の中には〈資料⑫〉を見て、「自分は家庭科室のコンロの掃除をしなかったけど、〇〇さんの結果を見て、本当に重曹で汚れがきれいに落ちることが分かったので家でお母さんに教えてあげたい」と振り返りをしていた。このことから、スクールタクトで実践の結果を共有することは児童の学びの深まりになったと考える。児

〈資料⑥〉掃除で使えるもの



けきおち
歯ブラシ

ほうき・たわし・スポンジ・ぞうきん・古着・布・新聞紙

〈資料⑦〉CT表

児童A：トイレを洗剤を使って掃除しようと思っていて、環境のことを考えていなかった。

C1：トイレだと、(プリントを確認)クエン酸を使うといいんじゃない。

C2：アルカリの汚れはクエン酸って言ってたよね。

児童A：じゃあ、洗剤をやめてクエン酸を使って掃除をすることにする。

C3：自分は初めから環境を考えて、窓を拭くのに新聞紙を使おうと思っていたよ。

C1：新聞紙を使うとインクがコーティングするって言ってたから、マジックリンみたいな洗剤使わなくてよさそうだね。本当にきれいになるのか気になるけど。

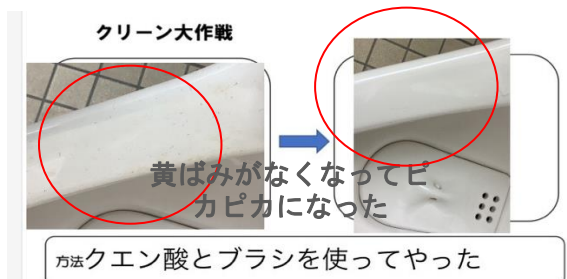
〈資料⑧〉クエン酸を用いてトイレ掃除の様子



〈資料⑨〉新聞紙を用いて窓を拭く様子

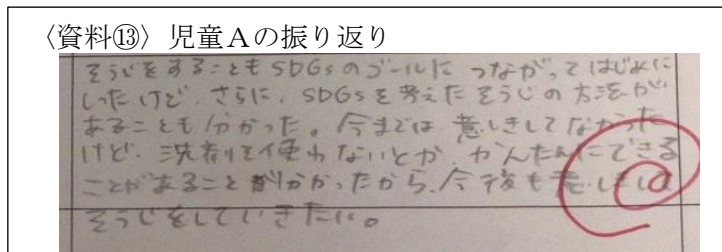


〈資料⑪〉児童Aのスクールタクトのまとめ



方法クエン酸とブラシを使ってやった

児童Aは振り返りに(資料⑬)「掃除をすることもSDGsのゴールに繋がっていることは授業の始めに学んだが、さらに、環境に配慮をした掃除方法もあることが分かった。今までは環境に配慮することを意識したことはなかったが、洗剤を使わないとか、簡単にできることがあることが分かったから今後も意識して掃除をしていきたいと思う。」と書いていた。このことから、掃除に関しては環境を意識した取り組みをしていこうという気持ちを高められたと考える。



6 研究のまとめと今後の課題

研究主題に迫るため、児童Aの変化や成長の様子を中心に追いながら、仮説の有効性を考え、明確になったのは以下の点である。また、一つ一つの手だてについて検証していく。

(1) 仮説①の検証【手だてア・イ】

<仮説①>

SDGsへの興味を高めたり、17のゴールとのつながりを意識した授業を行ったりすることは、SDGsを意識した行動に取り組むことを自分ごととして捉えることに有効であったと考える。

【手だて：ア】の総合の時間を活用してSDGsについて授業を行うことで、SDGsへの興味を高めることができた。その理由として、環境のことを考えて生活をしようと思わなかった児童Aがこのままではなく、SDGsを意識した生活をしていきたい(資料①)という思いをもったからである。また、児童の意見をSDGs 17のゴールと関連させる【手だて：イ】ことで、自分たちの生活の中にたくさんSDGsに関わっていることがあるという児童の感想から(資料②)、SDGsを自分ごととして捉えることができたのではないかと考える。よって、【手だて：ア・イ】は有効であったと考える。

(2) 仮説②の検証【手だてウ・エ・オ】

<仮説②>

掃除の仕方について環境に配慮した掃除の多様な方法を学び、授業の中で実践活動を取り入れることは、今後の日常生活での実践力を高めるために有効であったと考える。

【手だて：ウ】について、学校内の汚れを探すことで、今まで気づけなかった汚れに気付くことができた。児童Aから掃除をもっと丁寧にやろうという気持ちの変化が見られた。また、【手だて：エ】で話し合い活動を多く取り入れることで、資料⑦のCT表からもわかるように環境に配慮した掃除について様々な視点から考えることができた。児童Aも初めは環境に配慮した掃除について考えていなかったが、グループでの話し合い活動を通して、環境に配慮した掃除の仕方について考えることができた。最後に【手だて：オ】についても、実際に掃除をすることで、今度もSDGsを意識して掃除を実践していきたいという思いをもった。また、結果を共有し、自分の実践以外も結果を知ること、その掃除方法の効果を知り、他者に伝えていきたいという思いをもつことができた。掃除の時間に、「窓を新聞紙で拭いてもいいですか？」という児童や「油污れを落としたいから重曹をください」という児童の声もあがった。よって、【手だて：ウ・エ・オ】は有効であったと考える。

(3) 今後の課題

今回は掃除に視点を絞り持続可能な社会の構築に向け、実践力を育む児童の育成に努めた。今後、衣生活や食生活、住生活など家庭科の授業で扱う様々な項目についても今回のように手だてを用いて、持続可能な社会の構築に向け、実践力を育むことのできる児童の育成に努めていきたい。